2010 年 1 月～

人間歯科学研究会報

人間歯科学研究会
〒567-0883　茨木市大手町 7-26
FAX　０７２－６２６－６５１９
E-mail yoshihara@gold.ocn.ne.jp

2010 年 明けましておめでとうございます

2000 年に発足した人間歯科学研究会は、皆様の温かいご支持とご指導により 10 年目を迎えることができました。発足時は 10 名の博士集団でしたが、現在は常任会員が 30 名となり、家族会員を含めると 100 名近くになりました。

10 年一昔とはよく言ったもので、21 世紀に入り 10 年あまりの歳月ではありますが様々な事件事故、それから多大な被害を及ぼす天変地異を経験し、これからの歯科医療を考えよう！と発足した人間歯科学研究会をスタートした思い出がつい先日のことのようです。

2012 年には Maya の予言で地球（人類）が滅亡するということですがたぶん本会は没することはなく、会員間のパワーが打ち勝つだろうと思っております。

予防歯科として Prophylactic Treatment の確立他、小児歯科としての咬合指導、咬合調整、咬合誘導の具体化そして、オクルージョンを基礎とした発育と発達の明文化についてディスカッションし、整備してきました。中でも歯列弓の簡易比率分析法と発育方向の分析方法については画期的であったと自負しております。

10 年かけて、先生方そして患者様の希望に応じて歯ブラシの設計、製作を繰り返し、ようやくご希望通りに完成することができました。

臨床研究から実験までの繰り返しによる検証で、チューイングマスター“ＣＡＭ ＣＡＭ”の咀嚼学習と発達については予想以上の効果を発揮しています。子どもたちの発育変化と咬合習慣、そして成人の開口障害や美顔、それから高齢者の認知症など、まだまだ研究の余地がありますので今後が楽しみです。

唾液や細菌の研究は、ますます高度化しています。人間歯科学研究会の積極性によっては、2010 年代に大きな進歩が見られると思います。従来の歯科医療が変わることと確信しております。

医者が検査結果に喜ぶのは何故？

不思議なことに一般医は検査方法が多いため、検査結果の幾つかが予想の範囲にあると喜ぶ習慣があるようだ・・・。嬉しそうに結果報告をしてくれるのはいいが、だから如何するべきかを具体的に指導してくれることは少ない。投薬の処方と、頑張って下さいという言葉で終わることが多い。あとはパソコンのモニターを見ているだけで、患者を診ることはほとんどなくなった。

大学病院で検査結果を間違えられて、寿命を縮めて苦しんだ両親と、息子の誤診経験で、いくら身近にいる開業医の名医が紹介してくれても、大学病院が診断治療を誤って患者を苦しませるのはよくないと強く感じた。

それにしても歯科の検査は少なすぎて、保険点数も少なすぎる。むし歯検査も歯周病検査も口腔の機能検査を充分行わずに、削ったり充填したりする習慣がいつまで続くのだろうか(修復ばかりで、治療ができているとはいえない･･･)。

ＣＡＭ ＣＡＭ噛んだら！

ＣＡＭ ＣＡＭ ST を毎日 20 分間噛めるようになって、咬合力が 30kg 以上になると「破れた」という報告を受けます。

モグモグと口を動かしているだけでは破れませんが、咬合力・咀嚼力が発達すると、基本的に破れるようになってます。

当初は体重の 2 倍を目標にしていましたが、体重に関係なく 30kg 以上の咬合力の繰り返しでシリコンが破壊されることが分かりました。噛めない、噛まない人に対する咬む力がついたという目安です。

右側の咬合不全や咀嚼不良の場合は左側が、左側に歯列咬合不全がある場合は右側のベース（基板）が破れます。左右対等に咬合している場合は左右が開いて破れます。片方のみ破れた時には破れていない方を咬み合わせるように指導します。

切端咬合や反対咬合のために、咬合する位置を指導して、下顎の誘導ができるようになると、前歯部が破れて穴が開きます。

Ⅱ級咬合の時も切端位咬合を指導して下さい。

これぞまさしく咬合指導であり、ＣＡＭ ＣＡＭによる咬合誘導だといえるでしょう（削除法や挙上法は第 2 ステップとなります)。

ST で満足できない時は、調整した MD へと進めて下さい。

ＣＡＭ ＣＡＭ噛んだら、積極性と元気よさが倍増することでしょう！